

おさきじんじゃのちゅうてつせいほうけん

尾崎神社の鋳鉄製宝剣

市指定文化財 平成24年11月28日指定

安政4年（1857）、盛岡藩士大島高任が大槌通甲子村大橋（現：釜石市甲子町大橋）で日本初の洋式高炉建設に成功しました。当時のたら製鉄と違い連續出銑を可能とした点で、大きな技術革新となりました。

大橋鉄鉱山の出資は山田の貫洞瀬左衛門と大槌の小川惣右衛門、久慈の中野作右衛門によったが、安政6年には、御手行（藩宮）となり、万延元年には貫洞はお役御免となりました。

日本初の高炉法による出銑に成功した大橋鉄鉱山で制作されていた奉剣であり、その稼働者たちの名が陽鋲されている点からも、製鉄史上重要且つ画期的成功を証明する歴史遺産として貴重なものです。

